

私たちの町の文化財

■第11話 上代の発掘調査

現在、上代で発掘調査中です！

ここでの発掘調査、一番の難敵は水です。そう、この一帯は海拔が低く地下水位が高いので、地面を掘る発掘作業では、ちょっと掘っては水が湧き、水を汲み出し、また掘って、という状態になり、そうこうしているうちに辺りは泥沼と化していきます…作業は非常に困難を極めます。

ですが、この水も調査に悪いことばかりではありません。地下水位が高いということは、地下に埋まっている遺跡は水に浸かった状態に保たれているということになります。すると、水中にあるからこそ現代まで残るものがあります。普通、土の中では腐って無くなる生物由来のもの、簡単にいうと、骨や木等が保存されやすい環境となるわけです。昔から生活の中で使われてきた木の道具や建築材等、本来、遺跡の中にあるはずだけでも、多くの場合腐食して失われている遺物を、環境条件が揃えば、現代でも目の当たりにすることができるのです。

現在行なっている上代の発掘調査は、弥生時代や古墳時代の遺跡で、当時の木質がたくさん発見されています。なんの変哲もないただの木も多くありますが、中には人が加工した木の製品も含まれています。まだまだ調査は続きますので、今後なにが見つかるか楽しみです。熊本市文化振興課 原田範昭氏

紀元前300年…
約2300年前の、
木の杭が普通に残って
るってスゴイ！
カンナをかけたら
普通に家の柱に使え
そうかな…

突き立った木の杭

